

整理番号 02374

発送番号 122392 1/E  
発送日 平成16年12月 7日Notification

通知書

平成16年11月26日

特許庁長官

特許出願人代理人 岡田 正広 様

特願2000-391159

上記出願につき、平成16年10月22日当該出願に係る発明が特許をすることができない旨の刊行物等提出書による情報の提供がなされましたのでお知らせします。

提供された情報は、当該出願に関する書類の閲覧を請求すれば閲覧することができます。



この通知に関するお問い合わせがございましたら、下記までご連絡ください。

方式審査課

第六担当上席

電話 03(3581)1101 内線2626

ファクシミリ 03(3580)8016

【書類名】 刊行物等提出書 Form for Production of Publication etc  
【提出日】 平成16年10月22日  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【事件の表示】  
【出願番号】 特願2000-391159  
【提出者】  
【住所又は居所】 神奈川県横浜市青葉区さつきが丘1-47  
【氏名又は名称】 齋藤 元弘  
【提出する刊行物等】 1. 特開平4-237908号公報 2. 特開平4-237909号公報 3. 特開平5-036314号公報 4. 特開平6-103839号公報 5. 特開平6-087631号公報 6. 特開2002-36411公報  
【提出の理由】 1. 本件出願の下記の請求項に係る発明は、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。 記請求項1、2、4～7刊行物1、2、3、4備考: (1) 刊行物1、2及び3には、支持体(樹脂フィルム)上に塗布又は印刷により形成された導電性微粒子(インジウム錫酸化物微粒子)含有層を圧縮する(スチールロールによる圧縮処理する)ことにより得られる導電性微粒子の圧縮層を含む透明導電膜が記載されている(刊行物1、2及び3の各請求項1の記載参照)。 また、刊行物2の段落  
【提出物件の目録】  
【物件名】 特開平4-237908公報 1  
【物件名】 特開平4-237909号公報 1  
【物件名】 特開平5-036314号公報 1  
【物件名】 特開平6-103839号公報 1  
【物件名】 特開平6-087631号公報 1  
【物件名】 特開2002-36411公報 1

\*\*\*

【提出の理由】  
【0011】

には、導電性微粒子の圧縮層が圧縮時において樹脂を含み、ITO微粒子(インジウム錫酸化物微粒子)の体積含有率を特に50～80%に設定したことが記載されている。このことは、「樹脂の含有量は、体積で表して、導電性微粒子の体積を100としたとき、100～25の体積である」ように設定したことを意味し、73以下を含んでいる。また、刊行物4には、「透明導電インクを印刷又は塗布して乾燥し、次にスチールロールによる圧延処理を行い…」(刊行物4の請求項1の記載参照)、「透明導電インクが酸化物系超微粉を溶剤又は樹脂を溶解した溶剤に分散せしめてなる…」(刊行物4の請求項5の記載参照)と記載され、用いる透明導電インクは、酸化物系超微粉と溶剤だけからなり、樹脂を含まなくても良いことを示唆している。 また、刊行物4の段落

【0018】

には、「基材上に…透明導電膜を形成し、スチールロールによる圧延処理…後、その上から樹脂と溶剤から成るオーバーコート液でオーバーコートすると、膜中の空隙はオーバーコート液中の樹脂で埋められて光の散乱が防止され、膜の光学特性が著しく改善される。」ことが記載されている。よって、本願請求項1、2及び4に記載の発明は、何れも、刊行物1乃至4の上記記載に基づいて、当業者が容易に発明し得たものであり、進歩性がない。

【0024】

(2) また、刊行物4の請求項10には、「スチールロールによる圧延処理は線圧力50 kgf/cm以上で行われる」ことが記載されており、更に刊行物4の段落

【0089】

【0090】

には、「圧延処理を行うのに、ハードクロムメッキした直径150 mmのスチールロールを用いる」ことが記載されている。これに対して、本願実施例では、圧縮に全てハードクロムめっきされた直径140 mmの金属ロールが用いられている。ここで、本願と同一出願人の出願にかかる特開2002-36411公報（刊行物6）を参照するに、段落

及び

には、本願実施例と同じハードクロムめっきされた直径140 mmの金属ロール、及び50  $\mu$ m厚のPETフィルムを用い塗布膜を圧縮処理した結果が記載されており、線圧1000/mmは面圧500 N/mm $\blacktriangle 2 \blacktriangledown$ に相当することが記載され、更に、同刊行物6の表1には、各種線圧（単位：N/mm）における圧力（単位：N/mm $\blacktriangle 2 \blacktriangledown$ ）が求められている。それによれば、44 N/mm $\blacktriangle 2 \blacktriangledown$ の圧縮力は、線圧に換算すると40 N/mm（=40.8 kgf/cm）であり、347 N/mm $\blacktriangle 2 \blacktriangledown$ の圧縮力は線圧660 N/mmである。本願実施例（段落

【0066】

）にも、「幅方向単位長さ当り660 N/mm、長手方向長さ1.9 mmであり660/1.9=347 N/mm $\blacktriangle 2 \blacktriangledown$ 」との記載があり、刊行物6に記載の値と全く同じ値であることから、本願請求項5の44 N/mm $\blacktriangle 2 \blacktriangledown$ を40 N/mm（=40.8 kgf/cm）と考えることは至極妥当である。よって、本願請求項5及び7に記載の発明は、何れも、刊行物4及び6の上記記載に基づいて、当業者が容易に発明し得たものであり、進歩性がない。（3）また、刊行物1の段落

【0014】

には、「スチールロールの圧延処理に際して同時に加熱処理を行い、樹脂を硬化せしめるが、このための加熱処理温度は基板樹脂フィルムが過熱により歪みを生じない温度範囲（100℃以下）に選定される」と記載されており、同刊行物の図3には、スチールロールの圧延処理時の加熱処理温度として25℃、50℃、80℃に対する電気的特性及び光学特性の関係が表示されている。

よって、本願請求項6に記載の発明は、刊行物1の上記記載に基づいて、当業者が容易に発明し得たものであり、進歩性がない。2. 本件出願の下記の請求項に係る発明は、特許法第29条第1項第3号の規定により特許を受けることができない。記請求項3刊行物1、2、3備考：本願請求項3に記載の発明は、刊行物1乃至3の上記記載から明らかなように、本願出願前公知であり、新規性がない。3. その他 本願公開公報中の段落

特願2000-391159

ページ: 3/E

【0020】

には、「無機質の導電性微粒子としては、酸化錫、酸化インジウム、酸化亜鉛、酸化カドミウム等があり、アンチモンドープ酸化錫（ATO）、フッ素ドープ酸化錫（FTO）、錫ドープ酸化インジウム（ITO）、アルミニウムドープ酸化亜鉛（AZO）等の微粒子が好ましい。」と記載されている。本件出願人がこの記載に基づいて、仮に、本願請求項1及び4に記載の導電性微粒子の種類を具体的に限定したとしても、それらは、刊行物1乃至5の記載により、依然として進歩性を有するものとはなり得ない。

即ち、刊行物1乃至3の各請求項1には、「インジウム錫酸化物粒子」を用いることが記載されており、刊行物4の請求項5には、「透明導電インクが酸化物系超微粉を溶剤又は樹脂を溶解した溶剤に分散せしめる」ことが、また、同請求項6には、「酸化物系超微粉がインジウムスズ酸化物又はスズ-アンチモン酸化物の超微粉である」ことがそれぞれ記載されている。更に、刊行物5の段落

【0009】

には、「導電性塗料は、透明導電性フィーラー、該透明導電性フィーラーを分散させる分散媒のほか、必要に応じバインダーや各種添加剤が加えられ形成される」ことが、また、同段落

【0010】

には、「透明導電性フィーラーとしては、透明性のある導電性金属酸化物、すなわち、酸化スズ、酸化インジウム、アンチモン含有酸化スズ、スズ含有酸化インジウム、アルミニウム含有酸化亜鉛のうちの1種あるいは複数種が用いられる」ことがそれぞれ記載されている。